

十三駅エリア計画の骨格

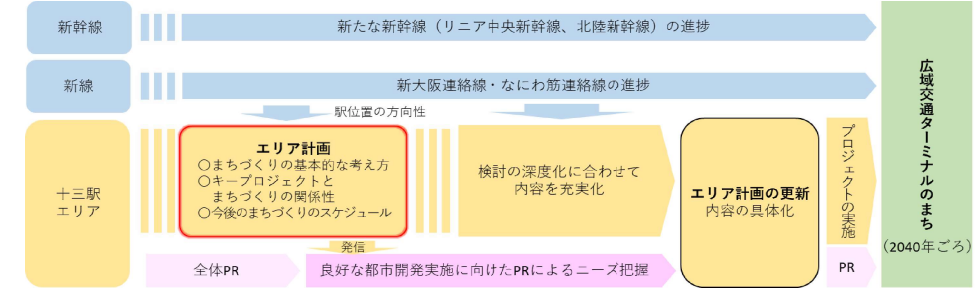
十三駅エリア計画の作成の目的

十三駅エリアは、新大阪駅周辺地域のサブ拠点として、また、地域のまちづくりにおける中心的な拠点としての役割を担うエリアである。当エリアの拠点性をさらに向上させるためには、既存3線による交通利便性に加え、新大阪連絡線・なにわ筋連絡線（以下、「新線」という）整備に伴う空港・新幹線へのアクセス性向上や、大阪駅周辺・新大阪駅エリアへの近接性向上の効果を活かし、ビジネス価値や国際性の向上を図るとともに、界限性等の十三の特色や、進行中の都市開発プロジェクトと連携した多様な機能導入を図る必要がある。

今般、新線の駅位置の方向性が示されたことから、将来の具体的な開発を見据えて、まちづくり全体の大きな方向性やプロジェクトの検討の方向性を盛り込んだエリア計画を策定し発信することで、良好な都市開発の誘導を図る。

まずは、新線整備に伴う、関連プロジェクトのPRを主な目的とするものの、今後、新線整備の方向性等の検討状況を踏まえて、検討の深度化を図り、エリア計画を更新し具体的な都市開発を進める。

【まちづくりの動きとエリア計画の関係】



まちづくりの基本的な考え方

○まちづくりの大きなコンセプト

従前からの交通利便性の高さや、新線整備に伴う、空港へのアクセス機能向上、大阪駅周辺・新大阪駅エリアへの近接性向上等の効果を最大限に活かし、比較的高度利用が進んでいない駅周辺において3つの機能（交流促進、交通結節、都市空間）を導入・集積し、拠点性のさらなる向上を図る。

また、過去から形成されてきた活気ある商店街や歓楽街を中心として新旧の文化が混在することや、ものづくり産業が数多く立地するといった特色を活かし、図書館や学校・住宅等を導入するもと淀川区役所跡地等活用事業や十三船着場を活用した淀川舟運事業を含めた淀川河川敷十三エリア魅力向上事業といった進行中の都市開発プロジェクトと連携し、多様な機能導入を図る。

あわせて、すでに鉄道・駅・道路等のインフラは一定整備されているものの、東西ネットワークをはじめとした歩行者ネットワークのさらなる強化やオープンスペースの確保に努め、回遊性向上等の地域課題への対応を図ることによって、エリア全体としての価値を高め、来訪者や地域住民にとって魅力ある、駅まち一体となった人中心の居心地の良い空間づくりをめざす。

○都市機能の向上を図るゾーン

新大阪駅から人の流れを呼び込み周辺に広げるエリアとして、特に十三駅周辺を重点的に駅からの徒歩圏（約500m圏）を都市機能の向上を図るゾーンとする。

【駅まち一体の空間づくり(ハード整備)】

新駅（既存十三駅直近の地下でのホーム設置）を中心に、都市機能の集積や周辺ネットワークの改善・強化を図る。あわせて、周辺において、十三の特徴を踏まえた多様な機能の導入やエリア全体としての回遊性向上について検討する。

【人と人をつなぎエリアの活性化を図る取組み(ソフト施策)】

ハード整備と連携し、質の高い空間の創出やエリアの活性化を持続的に行っていくための仕組みの構築を図る。



駅まち一体の空間づくり(ハード整備)

○3つの主要プロジェクト(検討の方向性)

(1)新大阪連絡線・なにわ筋連絡線新駅プロジェクト

新線の駅整備により、多様な人々を呼び込むとともに、周辺地域や関西広域にも回遊を促すという双方への流動をつくりだし、関西全体での交流人口の増加を図る。

(2)駅周辺一体整備プロジェクト

十三駅周辺は、鉄道3路線や、地上・上空の道路等の既存インフラ、地下の新線に挟まれ、空間の制約があることから、狭小な用地や複雑な動線が多く、エリアのさらなる魅力向上のためには、駅周辺を一体的に整備していく必要がある。

そのため、新大阪連絡線・なにわ筋連絡線新駅プロジェクトに合わせて、駅上部・地下空間、駅周辺やインフラを総合的に整備し、駅とまちが一体となって人中心の空間を形成するとともに、駅周辺の回遊性の向上を図る。

また、駅利用者や来訪者・地域住民の利便性の向上に資するような機能の導入を図るとともに、駅からまちに降り立つ空間の魅力を高める広場機能や、十三駅エリアを目的地として来訪する人や地域住民を受け入れる交流機能、環境機能や防災機能などの導入を検討し、まちの価値向上を図る。

【主な検討項目】

- 駅直上開発
- 駅周辺の歩行者ネットワーク改善・強化
- 滞留機能
- 交通結節機能

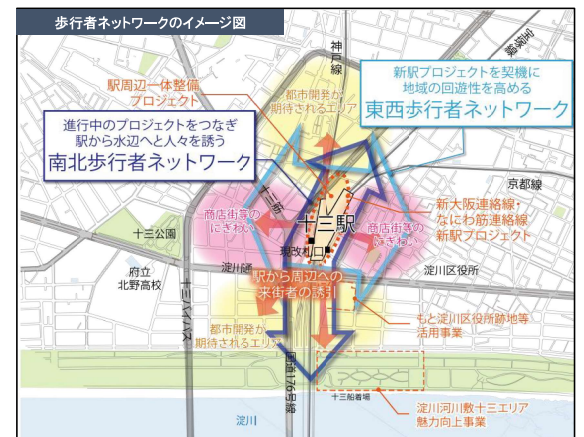
(3)エリア全体におけるまちづくり

新大阪連絡線・なにわ筋連絡線新駅プロジェクトや駅周辺一体整備プロジェクト、進行中の都市開発プロジェクトと連携し、既存の商店街や街並みとの調和を図りつつ、十三駅周辺の特色を踏まえた多様な機能導入に向けて検討を深めていく。また、歩行者の回遊性及び快適性の向上方策のほか、社会状況の変化を踏まえた様々な取組み（まちづくりDX・GX、万博レガシーの実装・活用など）についても検討を進める。

十三駅周辺にははまとった開発用地が乏しいことを踏まえ、上記の検討にあたっては、建物の建替やリノベーションを行う際の機能導入も想定して行う。

人と人をつなぎエリアの活性化を図る取組み(ソフト施策)

駅まち一体の空間づくり（ハード整備）と連携し、快適で質の高い空間の創出やエリアの活性化などを持続的に進めていくため、これまで地域で進められてきた取組みを踏まえながら、多種多様な取組みや実施主体（都市開発におけるエリアマネジメントの導入など）について検討を進める。



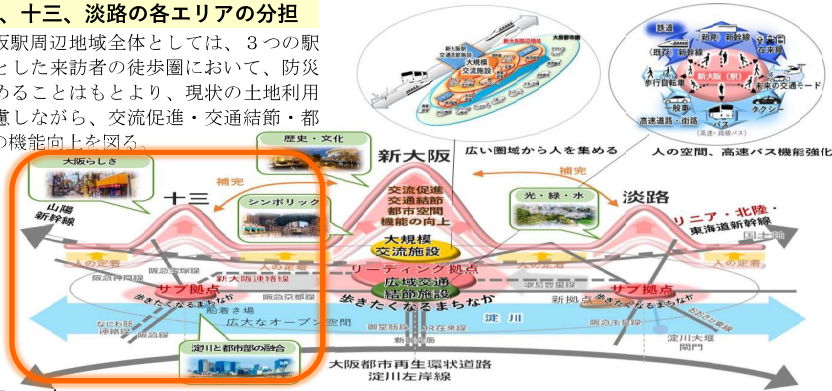
(参考)新大阪駅周辺地域が担うべき役割、導入すべき機能及び地域内の役割分担
※「新大阪駅周辺地域まちづくり方針2022」より抜粋

○新大阪駅周辺地域が担うべき役割

①スーパー・メガリージョンの西の拠点 ②広域交通のハブ拠点 ③世界につながる関西のゲートウェイ

○新大阪、十三、淡路の各エリアの分担

新大阪駅周辺地域全体としては、3つの駅を中心とした来訪者の徒歩圏において、防災性を高めることはもとより、現状の土地利用にも配慮しながら、交流促進・交通結節・都市空間の機能向上を図る。



(新大阪駅エリア)

新幹線駅をはじめとする広域交通の利便性が高いポテンシャルを活かして質の高い機能の集積を図り、3つのエリアのリーディング拠点として、国内外の広域の人の流れを集めて、まちに広げる重要な役割を担う。特に、目的地のシンボルとなる大規模な交流施設の立地、広域交通結節施設として人の空間の拡充や高速バス拠点化、駅からまちへの空間の演出などにより、新大阪駅周辺地域の拠点性の向上をけん引する。

(十三駅エリア・淡路駅エリア)

新大阪駅エリアと多様な交通モードでネットワークさせつつも、懐かしさや、空間的なゆとりなど新大阪にないそれぞれの特色を活かした独自性を持つことにより、新大阪駅エリアの役割や広域的な機能を補完するサブ拠点としての役割を担うことで、3エリアが一体となって魅力の高い拠点を形成する。

(3エリア共通)

各エリアにおいては、駅とまちが一体となった居心地のよい歩きとなるまちなかの空間の形成を図り、駅からの人の流れ(広域からの交流人口)と、まちからの人の流れ(定着人口)を生み出す。

○導入すべき都市機能の具体的な考え方

交流促進機能

国内外から多様な人と情報が集まり、新しい価値を生み出す。



(ビジネス・産業)
○人材、アイデア、モノの集積
○人と人の関係性の構築
(観光・文化・エンターテインメント)
○関西・西日本の魅力の体感
○ツーリストの快適な滞在
○ナイトアクティビティ など

例：大規模交流施設、グローバル企業・スタートアップ、サードプレイス、文化・芸術施設、食文化などの体験施設など

交通結節機能

日本・世界と関西をつなぎ、広域の人の流れを集めて、まちへつなげる。



(新大阪駅)
○多様な交通モードの拡充
○人に寄り添ったサービス
(新大阪・十三・淡路)
○回遊性・リダンダンシー
○災害への対応 など

例：乗換とまちへの人の動線、利用者へのサービス施設、高速バス拠点、新技術の実証、ユニバーサルデザイン

都市空間機能

シンボル性と、懐かしさをもつ、光・緑・水などによる居心地の良い空間形成。



(新大阪駅)
○駅からまちへの演出
○多様な空間
○新しいシンボル
(十三・淡路)
○水辺、なつかしさ など

例：賑わいや、潤いなど、ホッとするハッと空間づくり、まちと一体的な水辺の活用

新しいまちづくりの基本的な進め方

- ・新大阪駅・十三駅・淡路駅の各エリアにおいて、具体化するプロジェクトを取りまとめたエリア計画を定める。
- ・新たな交通施設や開発ビルなどの都市のハードの整備とともに、活動する人々の満足度の向上などを図るソフト施策を官民一体で取り組むことにより、エリア価値の向上を図る。

(参考)エリア計画の用語について

用語	解説
まちづくりDX・GX	【まちづくりDX(デジタル・トランスフォーメーション)】 豊かな生活、多様な暮らし方を支える「人間中心のまちづくり」の実現のため、基盤となるデータ整備やデジタル技術の活用を進め、都市における新たな価値創出又は課題解決を図ること。具体的には、3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化、デジタル技術を用いた都市空間再編、エリアマネジメントの高度化、データを活用したオープンイノベーションの創出などが挙げられる。 (まちづくりのデジタル・トランスフォーメーション実現ビジョン(ver1.0)(国土交通省)より) 【まちづくりGX(グリーン・トランスフォーメーション)】 ①気候変動への対応(CO2の吸収、エネルギーの効率化・暑熱対策等)、②生物多様性の確保(生物の生息・生育環境の確保等)、③Well-beingの向上への要請(健康の増進、良好な子育て環境等)に應えるため、都市緑地の多様な機能の発揮及び都市におけるエネルギーの面的利用などの取組みを進めること。 (令和6年度 都市局関係予算決定概要(国土交通省)より)
万博レガシー	舟運や自動運転技術など、2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)でのレガシー(遺産)を引き継ぐもの。
エリアマネジメント	地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための住民・事業主・地権者などによる主体的な取組み。 (大阪のまちづくりグランドデザイン(大阪府・大阪市・堺市)より)
スーパー・メガリージョン	リニア中央新幹線により、三大都市圏がそれぞれの特徴を発揮しつつ一体化することで形成される世界最大級の巨大都市圏。 (大阪のまちづくりグランドデザイン(大阪府・大阪市・堺市)より) ※なお、第三次全国国土形成計画(令和5年7月閣議決定)では、「日本中央回廊」という名称になっている。
サードプレイス	アメリカの社会学者レイ・オルデンバーグが、著書「The Great Place」において、「家庭や職場での役割から解放され、一個人としてくつろげる場」として位置づけた。
リダンダンシー	自然災害等の発生時に、全体の機能不全につながらないように、予め交通ネットワークやライフライン施設を多重化したり、予備手段が用意されている様な性質。 (大阪のまちづくりグランドデザイン(大阪府・大阪市・堺市)より)